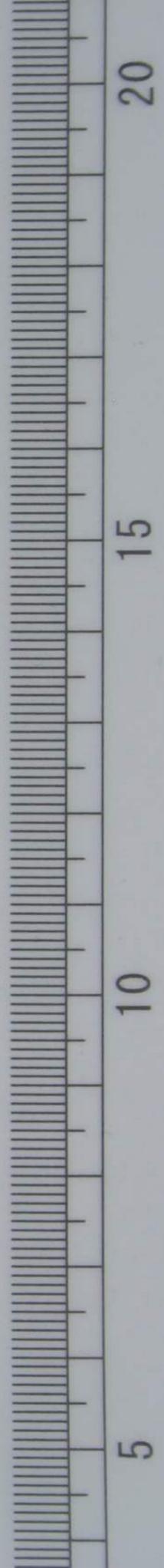



 日露開戰
 軍歌
 大和田建樹著



5

10

15

20



博文館

博文館

博文館



博文館

博文館

博文館



日露開戰軍歌

大和田建樹著



軍歌
郵便

a i e u o
su sei se shin so
ra ri re ru ro
ta ti te tu to
shu shi she shun shu



日露開戦軍歌

大和田建樹著

一、山嶽さんかくふるひ湖海こかい沸わく

聲こゑは天地てんちに轟とどろきて

東洋とうやう平和へいは破やぶれたり

敵かたきは誰たれぞ何なにものぞ

ニ、世界の北に地を占めて

跋扈をはかる露西亞國

國の大きに誇りつ、

人を人とも思はざる

三、傍若無人のふるまひは

天いきどほり人怒る

討たでは止まじ討つべしの

聲全國におこりたり

四、わが忠勇の軍隊が

血潮ながして攻め取りし

かの遼東の半島は

忘れもすまじ國民よ

五、そも此名譽の遼東を

還附せしめし干涉の

首謀は誰ぞ彼國ぞ

憎き露西亞の國なるぞ

六、露西亞討べし懲らすべし

他國の進路を妨げて

利己の奸智を打ちふるふ

敵は世界の仇なるぞ

七、還附させたる旅順をば

自國の兵にまもらせて

期限くれども撤兵の

實をあぐべき様見えす

八、人に還させ我は取る

心は誰かにくからぬ

露西亞うつべき國民の

氣は早こゝに萌したり

九、北清事件のおこりし日

又も露西亞は其國の

境をこえて滿州に

あまたの兵を出だしたり

一〇、名は鐵道の防禦とも

何とも彼はいはひいへ

事たひらぎていつまでも

引かせぬ事實は何事ぞ

一一、野心みちたる露西亞國

今此時に討たずして

又討つ時のあるべしや

民の心は決したり

一二、飽く事しらぬ荒鷲の

翼いつまで張らすべき

境の外までさし伸ばす

鋭き爪も今日までぞ

一三、もし此まゝになしおかば

鷄林八道風あれて

四百餘州は荒鷲の

羽を載す土地と成りぬべし

一四、彼は平和の敵なるぞ

我東洋の仇なるぞ

討つべき時に討たずして

悔を子孫に遺すなよ

一五、我に正義の軍あり

奸獍邪惡の輩を

討ちて懲らして東洋の

平和を守るは國の責

一六、萬世不易の皇統を

上にいたゞく國民が

心ひとつに打ち向ふ

刃風に破れぬ敵やある

一七、忠孝武烈を事として

君に仕ふる國民が

討ちだす正義の彈丸に

あたりて碎けぬ舟やある

一八、進めや進め我勇士

雪ふむ山の奥までも

進めや進め我丈夫

氷の海の果までも

一九、肩に銃あり敷島の

大和心の武士が

腕をふるひて千載に

残す譽は今なるぞ

二〇、腰に劔あり忠勇の

日本男児が國のため

研きくし赤心を

盡す時節は今なるぞ

二一、逆巻く波を蹴破りて

乗りだす東洋艦隊も

見るまに沈め亡ぼして

勝どきあげん心地よや

三、波間の花と装ひて

攻めくる義勇艦隊も

皆白旗を立てさせて

我手に入れん心地よや

三三、わが東洋の海上に

古今未曾有のめざましき

海戦見せて傲慢の

敵の肝をば挫ぐべし

二四、かくて海には敵艦を

影なくなして陸軍の

向ふは何く荒鷺の

住家も既に物ならず

二五、浦鹽斯徳たちまちに

わが軍隊に満たされて

街にひやく喇叭の譜

はや君が代となりぬべし

二六、シベリヤ鐵道てつだうときこのまに

敵兵てきへい失うせてさしのぼる

朝日あさひにかゝやく日の御旗みはた

靡なびく御威みいつの勇ゆうましき

二七、かくまで勇ゆうむ忠ちゆうと義ぎの

わが國民こくみんに手てむかふは

朝日あさひに消きゆる秋草あきくさの

露つゆの命いのちと知しらざるか

二八、なほも迷まよひの夢ゆめさめず

甲かよとをぬいで降くだらずば

セントピトルスバルグ迄まで

矛ほこさき鋭すろどく攻せめ入いらん

二九、今いままで世界せかいの大國たいこくと

雄視ゆうしせられし露西亞ろしあの地ち

取とるも屠ほふるも助たすくるも

わが掌たなそこの内うちにあり

三〇、武士よ勇士よ國民よ

男兒いのちを捨てゝこそ

千歳の名をば成すべけれ

奮へや奮へ國のため

明治三十七年二月十日印刷
明治三十七年二月十三日發行

定價金參錢五厘

著者 大和田建樹

發行者 大橋新太郎
東京市日本橋區本町三丁目八番地

印刷者 野村宗十郎
東京市京橋區築地三丁目十五番地

印刷所 株式會社東京築地活版製造所
東京市京橋區築地二丁目十七番地



發兌元 東京市日本橋區本町 博文館

木村小舟君作歌 田村虎藏君作曲

全部拾貳冊 賣價 壹冊金貳錢五厘 六冊拾四錢
洋裝袖珍小判 拾貳冊貳拾七錢 郵稅壹冊貳錢宛

家庭唱歌

- ◎第一編 桃太郎
- ◎第二編 舌切雀
- ◎第三編 松山鏡
- ◎第四編 花咲翁
- ◎第五編 浦島太郎
- ◎第六編 文福茶釜
- ◎第七編 勝々山
- ◎第八編 羅生門
- ◎第九編 一寸法師
- ◎第十編 猿蟹合戦
- ◎第十編 倭藤太
- ◎第十編 瘤取り

本書は吾國に昔より傳れる兒女のお伽噺を木村小舟君が其麗筆もて唱歌に書きなされ有名なるお伽噺の著者巖谷小波先生の校閲を経たるものにして教訓の趣味自ら朝夕に唱ふ兒女をして知らず識らずの内に感化せしむ實に家庭教育に必須適切な唱歌なり

伊東海軍大將題辭 海軍少主計竹内十次郎君作

征海軍々歌

小判洋裝正價參錢郵稅貳錢

○恭奉拜讀宣戰之詔敕
○右同
○銃の操法に擬して
○豐島海戰
○黃海海戰
○水雷艇萬歲
○威海衛軍港陷落
○戰友を吊ふ
○海軍の花

上村左川 君編纂	安藤謙吉 君著	遠山 君著	稻田實 君著	津田素彦 君著	三井末彦 君著	久留島武彦君著	長尾海軍大尉編	上野義八郎君著	長尾海軍大尉著
●内外遊戯法	●昆蟲採集	●ボート競漕	●新游泳術	●ベリースポーツ	●蹴鞠と自轉車	●陸軍一斑	●海軍一斑	●海軍兵器說明	●海軍出身案内
正價廿五錢 郵稅六錢	正價拾貳錢 郵稅貳錢	全一冊洋並綴 正價貳拾五錢	全一冊洋並綴 正價貳拾五錢	全一冊洋並綴 正價貳拾五錢	全一冊洋並綴 正價貳拾五錢				
野田圭園 君著	志岐守二 君著	津田素彦 君著	三宅鐵骨 君著	志岐守二 君著	佐野信三郎君合著	全一冊洋並綴 正價貳拾五錢	全一冊洋並綴 正價貳拾五錢	全一冊洋並綴 正價貳拾五錢	全一冊洋並綴 正價貳拾五錢
●庭球術	●陸上競走	●射的及弓術	●玉突術	●室內遊戯法	●銃獵案内	全一冊洋並綴 正價貳拾五錢	全一冊洋並綴 正價貳拾五錢	全一冊洋並綴 正價貳拾五錢	全一冊洋並綴 正價貳拾五錢
正價拾貳錢 郵稅貳錢	全一冊洋並綴 正價貳拾五錢	全一冊洋並綴 正價貳拾五錢	全一冊洋並綴 正價貳拾五錢	全一冊洋並綴 正價貳拾五錢					



押川春浪君著 (再版)

英雄 小説 武俠の日本

小判洋裝 正價四拾錢 郵稅六錢

海底軍艦の續編として出でたる本書又實に押川春浪君が一大傑作なり帝國新造軍艦の沈没は東洋人波瀾の發端なり日英露佛米比の英勇盜人兇漢刺客は五大洲の活舞臺に勇躍す東方侵略艦隊の横行海底軍艦の行衛大西郷の再生露國猛將の憤死比律賓獨立軍の苦戰變勇俠客の奇珍西洋鬼界ヶ島の悲劇空中軍艦の出現等讀去讀來骨鳴り肉動き熱血迸る前編と相待つて愛國男兒必讀の快著也

押川春浪君著

海島冒險奇談 海底軍艦

小判洋裝正價參拾錢郵稅六錢

尾上新兵衛君著

軍事小説 戰塵

小判洋裝正價參拾錢郵稅六錢

櫻井鷗村君譯述

絕島奇譚

中判洋裝正價參拾錢郵稅四錢

櫻井鷗村君譯述

遠征奇談

中判洋裝正價參拾錢郵稅四錢

櫻井鷗村君譯述

續遠征奇談

中判洋裝正價參拾錢郵稅四錢



文學士 大町桂月君譯述

日露戰爭未來記

大判洋裝一五七頁 正價金拾八錢 郵稅四錢

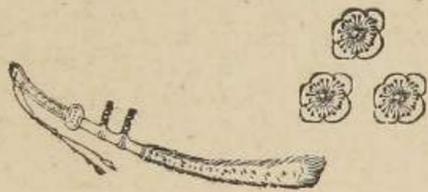
我征清の大捷は計らずも日本男子の氣魂と陸海軍備の整一とを各國に知らしめ而して各國の文士に我日本の國威を歌はしむる事となりぬ此書又英人モリス氏が我武勇を歌ひしもの陸に海に連戰連勝向ふ處敵無きの光景宛として目睹するが如く臥遊燈下の同伴として之を讀まば覺へず案を拍て快哉を叫ばむ

紫山 川崎三郎君著

增訂 西南戰史

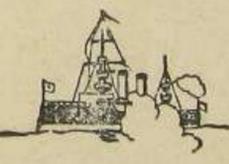
全一冊 洋布上綴 大判一、三五〇頁 賣價金八拾錢 小包送六百文

明治十年の亂は關ヶ原役以來の大戦にして、維新中興の成就と、國民意向の趨勢とに至大の關係ありて、實に明治史中の一眼目なり。然るに世間其原因、結果趨勢を審かにし、完全なる西南戰史たるものなし、川崎紫山氏拮据經營、精確なる幾多の材料に據り、且當時の士の目撃耳聞を參照して本書を著はす。西南戰史始めて完書ありと云ふ可し。曩に一部十二卷として出版したるを、今藏架の便を計り増訂して壹卷とせり、讀者一たび眼を暴らさば當時天下の大勢、對外の趨勢及び幾多世間未知の奇事等躍如として紙上に顯はれ拍案快哉を大呼せん



文學士中内蝶二君譯小峰大羽書

日露戰爭未來の夢



洋裝大判並製 正價貳拾五錢 郵稅六錢

日露關係愈よ切迫して東洋の天、風雲益々急に、
 砲火滿州の野に轟くるの日は將に來たらんとす我果して勝つ
 べきか彼れ果して捷つべきか今に方て先世人の念頭に來る
 ものは日露強弱問題なり而して此問題を尤も平易に尤も
 愉快に且つ最も趣味深く解決したるものは即ち此小説
 りとす且つ本書は露人の日露戰爭觀にして著者自身
 か己れの本國を如何に觀察せるか又日本に對して如
 何なる同情を有せるか是れ最も本書の價値ある所
 にして又最も現實に徴すべき奇書なり讀者請ふ
 讀んで其真相如何を知れ

此書は著者が年少氣銳の作にして筆を亡國の事に假りて東洋連衡の策を論じたる慷慨の政治小説なり講談物に飽き戀愛小説に倦みし讀書家は悲壯淋漓、辭藻流麗なる本書を繙かれよ

讀め!!!
 讀め!!!
 讀め!!!

大橋乙羽君著

政治小説 累卵の東洋

正價金拾八錢郵稅貳錢

東京日本橋區
 博文館發兌